第３回　横浜市山下ふ頭再開発検討委員会　会議録	
日　　時	令和６年１月 12 日（金）14 時 15 分～16 時 00 分
開 催 場 所	横浜シンポジア（産業貿易センタービル　９階）
出　席　者 ※敬称略	石渡　卓　　（神奈川大学理事長） 今村　俊夫　　（株式会社東急総合研究所代表取締役会長） 内田　裕子　　（経済ジャーナリスト、イノベディア代表） 河野　真理子　（早稲田大学法学学術院教授）　※ウェブ参加 北山　恒　　（建築家、横浜国立大学名誉教授） 隈　　研吾　　（建築家、東京大学特別教授・名誉教授）　※ウェブ参加 坂倉　徹　　（横浜商工会議所　副会頭） 幸田　雅治　　（神奈川大学法学部教授）　※ウェブ参加 高橋　伸昌　　（関内・関外地区活性化協議会　会長） 宝田　博士　　（協同組合元町エスエス会　理事長） 田留　晏　　（神奈川倉庫協会　会長） デービッド　アトキンソン　（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長） 平尾　光司　　（専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事） 藤木　幸太　　（横浜港運協会　会長） 藤木　幸夫　　（横浜港振興協会　会長） 涌井　史郎　　（東京都市大学特別教授）
欠　席　者 ※敬称略	寺島　実郎　　（一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長） 村木　美貴　　（千葉大学大学院工学研究院教授）
開 催 形 態	公開（傍聴者 16 人／記者 20 人）
次　　第	１　議　事 （1）　前回委員会後の市民意見等の説明 （2）　地域関係団体委員の挨拶・意見書の説明 （3）　事務局の説明 ・市民意見募集等のとりまとめ結果 ・ファクトシート「横浜市の現状」について （4）　学識者委員プレゼンテーション （5）　意見交換 ２　その他
議　　事	別紙
資　　料	当日配布資料 (1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿 (2) 前回委員会後の市民意見等 (3) 地域関係団体　意見書 (4) 市民意見募集等のとりまとめ結果 (5) ファクトシート【基礎資料編】

別紙

第３回　横浜市山下ふ頭再開発検討委員会　議事

【事務局】

これより、「山下ふ頭再開発検討委員会」を開催します。

私は、事務局を務めます、山下ふ頭再開発調整課長の荻原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の資料を確認させていただきます。次第、名簿、前回委員会後の市民意見等、地域関係団体意見書、市民意見募集等のとりまとめ結果、ファクトシート「基礎資料編」を配付しています。よろしいでしょうか。

開催に当たりまして、山下ふ頭再開発調整室長の新保よりご挨拶申し上げます。

【事務局】

皆様、こんにちは。室長の新保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、山下ふ頭再開発検討委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

はじめに、能登半島地震により亡くなられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、今回から地域関係団体の６名の方に、ご参加をしていただいております。本当にありがとうございます。

また、今後の更なる議論の広がりに向けまして、事務局として本市の政策局の職員も参加をさせていただいておりますので、よろしくお願いします。

本日は、次第にございますように、前回の委員会後にいただきました市民の皆様からのご意見の説明、そして地域関係団体、本日は２団体の委員の方から意見書のご説明、そして委員会の説明といたしまして、市民意見募集等のとりまとめの結果、そしてファクトシートとして「横浜市の現状」についてご説明させていただきます。

その後、学識者委員の皆様からのプレゼンテーションを行っていただき、最後に意見交換を行っていくという予定でございます。

本日も、これまでと同様、闊達なご議論をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日の委員の皆様の出席状況についてご報告させていただきます。委員18名の内、Webでご参加の隈委員、河野委員、幸田委員を含め16名の皆様に、ご出席いただいております。なお、河野委員は１時間程度遅れての参加となります。よろしくお願いします。

寺島委員長は、急遽ご都合によりご欠席との連絡をいただきました。村木委員もご欠席でございます。

委員長の代理につきましては、横浜市山下ふ頭再開発検討委員会条例第４条４項に基づき、委員長が委員の中から指名することとなっております。寺島委員長からは、あらかじめ石渡委員をご指名いただいておりますので、石渡委員に委員長代理をお願いしようと思

います。
　石渡委員長代理、恐れ入りますが一言お願いします。

【石渡委員長代理】
　はい。皆さんこんにちは。今ご説明ありましたとおり、寺島委員長が急遽ご欠席ということでございますので、ご指名によりまして、私が本日の委員長代理を務めさせていただきます。
　委員の皆様におかれましては、どうぞ円滑な議事進行につきましてご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】
　ありがとうございました。
　本日のタイムスケジュールについては、議事（１）を３分程度、議事（２）地域関係団体委員の方々のご挨拶の後に、藤木幸夫委員、坂倉委員からの意見書のご説明を10分程度ずつを目安に行っていただきます。
　続きまして、議事（３）を15分程度、議事（４）につきましては、学識者委員プレゼンテーションとして、今村委員、アトキンソン委員から10分程度ずつ行っていただきます。
　終了後、議事（５）意見交換を20分程度行っていただきたいと考えております。
　本日も、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料については、インターネット中継により配信されます。
　なお、会議の模様を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、予めご了承ください。
　これより先の進行は、石渡委員長代理にお願いしたいと思います。
　石渡委員長代理、どうぞよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】
　それでは、議事（１）　に入ります。議事次第をご覧いただきながら進めてまいりたいと思います。議事（１）につきましては、前回委員会後の市民意見についてでございます。これにつきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】
　山下ふ頭再開発調整担当部長の竹内と申します。どうぞよろしくお願いします。
　では、前回委員会後にインターネットフォームに寄せられました市民意見について、ご説明させていただきます。
　お手元の資料２をご覧ください。
　委員の皆様には、事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、１から２ページは市民の皆様のご投稿をまとめたものになります。３ページ以降は市民の皆様のご投稿をそのままつづった資料となっております。
　１ページをご覧ください。受付期間は前回委員会開催日の11月30日から１月８日まで、

意見数は39名の方から105件いただきました。なお、山下ふ頭再開発に関連しないご意見につきましては除外させていただいております。

「３　御意見の主な内容」をご覧ください。

「まちづくりの方向性」につきましては「みなとみらい地区との差別化を図るため、山手・元町・中華街の持つ歴史や文化を活用して、陸側とのつながりを意識するべき」「脱炭素・省エネが必須になるという学識者委員の主張は必要事項として議論すべき」「横浜のまちづくりの歴史を委員会で共有し、先人の業績に学び、未来の市民にも誇れる都市づくりをすべき」などのご意見をいただきました。

「導入機能」については、「他の観光地との差別化を図るアイデアとして、鹿鳴館時代の衣装等で町ブラができる魅力的な空間」、「市民を増やすため、子ども専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設など、子どもたちが繰り返し来たいと思わせる施設」、「みなとみらいの眺望など横浜港が一望できる飲食店や入浴施設、イベント会場などの集客施設」などのご意見をいただきました。

裏面をご覧ください。

「（２）地域関係団体や市民の参加に関する御意見」については「地域関係団体委員についての６団体は適切な選択」、「経済界に限ることなく、地域住民の代表も含めて、広範な領域からの人選を考えるべき」、「様々な分野から、地元で活動している団体の声や市民団体の提案等の声を聞くべき」などのご意見をいただきました。

「（３）その他の御感想等」については、「自然とコミュニティが共生する都市づくりこそが、横浜の目指すべき都市づくりにという意見に同意」、「新しい価値観を尊重し、未来の世代のために再開発をすることが重要」、「優れた知見に基づくプレゼンテーションは視聴し甲斐があり、委員間のやりとりも面白い」などのご意見をいただきました。

説明は以上となります。

【石渡委員長代理】

今説明がございましたけれど、これにつきまして何かご質問・ご意見ございましたら、挙手の上、ご発言をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

Webの方もどうですか、よろしいですか。

【全体】

（発言無し）

【石渡委員長代理】

特にないようにお見受けいたしますので、これにつきましては、特段のご質問・ご意見がないというふうにさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

【全体】

（発言無し）

【石渡委員長代理】

それでは、議事（２）に入りたいと思います。

議事（２）は、地域関係団体委員のあいさつ、その後に意見書の説明をいただくということになっておりまして。本日新たに参加されました地域関係団体委員６名の皆様から一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。どうぞ、着席のままごあいさつをいただきたいと思います。私のほうからご指名をいたしますが、６名の方お願いしたいと思います。

なお、藤木幸夫委員と坂倉委員につきましては、あいさつが終わった後に意見書の説明をそれぞれ順番にしていただければと思います。

それでは順番にご指名をいたします。まず、横浜商工会議所の坂倉委員にお願いいたします。

【坂倉委員】

横浜商工会議所の副会頭を務めております坂倉でございます。当所では、商工業の発展に寄与することを目的として、明治13年に設立をされました。現在では12,214会員、令和５年11月30日現在でございますが、組織する地域総合経済団体でございます。山下ふ頭の再開発につきましては、当所では、去る令和４年６月20日、山中横浜市長に対して、山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向け、取組に関する要望を提出しておりますので、本要望内容に基づき山下ふ頭再開発に向けての意見を述べさせていただきます。

続けてよろしいですか。

【石渡委員長代理】

一応紹介だけということで、後ほどご意見は別括りでお願いしたいと思います。

【坂倉委員】

そうですか、よろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。坂倉委員からの挨拶でございました。

続きまして、関内・関外地区活性化協議会の高橋委員にお願いいたします。

【高橋委員】

初めまして、関内・関外地区活性化協議会の会長をやっております高橋と申します。これで見ると分野はまちづくり団体ということですので、私は今横浜中華街発展会協同組合の理事長もやっております。この検討委員会に今回参加させていただきます。よろしくお願いします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。続きまして、協同組合元町エスエス会の宝田委員、よろしく

お願いいたします。

【高橋委員】
協同組合元町エスエス会の理事長を務めております宝田と申します。近隣の商店街代表ということで推挙いただきましてありがとうございます。今日初めてではございますけれど、どうぞよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】
ありがとうございました。続きまして、神奈川倉庫協会の田留委員、お願いします。

【田留委員】
神奈川倉庫協会より推薦されました、会長をしております田留でございます。今後ともよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】
ありがとうございました。続きまして、横浜港運協会の藤木幸太委員、よろしくお願いいたします。

【藤木幸太委員】
横浜港運協会の藤木でございます、どうぞよろしくお願いいたします。
山下ふ頭は、我々も山下ふ頭が出来た当時から我々の業界が使わせていただいていた場所です。
それを大事に、市民の意見を聞きながら、我々も今後市に役立つような、港湾だけでなくて、市の役に立つようなものになったらいいなというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】
ありがとうございました。最後になりましたが、横浜港振興協会の藤木幸夫委員、よろしくお願いいたします。

【藤木幸夫委員】
藤木でございます、いつも色々お世話になってありがとうございます。港の関係で多くの先輩たちが、今もう我々のご先祖様になってますけれど、そういう皆様の思いも私の口からなんとか皆様にお訴えして、将来非常に明るい、難しいこと言い出したらキリがないこの時代に、横浜港は別だぞ、というような意気込みで、これから皆さんの力を頂戴したい。細かいことはご質問いただければ何でもお話させていただきます。後ほどよろしくお願いいたします。以上です。

【石渡委員長代理】

ありがとうございます。続きまして、今自己紹介が終わりましたので、これからは地域関係団体委員の皆様から意見書の説明を受けたいと思います。それぞれ10分程度という制限の中でありますが、どうぞよろしくお願いします。本日は６名の中から２名の方に意見書の発表をお願いしたいと思います。

初めに、この意見書の発表は藤木委員からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【藤木幸夫委員】

話し出すと長い男なものでして、いつも演壇に立ちますと必ず３枚は「時間です」と紙をいただく男です。何分いただけるのでしたっけ。10分ですね。恐れ入ります。

港の話というのは、まず皆さん方に今、港の仕事というのはどの程度の社会的な貢献度があるんだということを色々と。それぞれの思いは違うかと思いますが。

今から50年ほど前に私が初めて自分の仕事として、社会人として色々方々へ足を運んでいた時代がありましたが、東京の経団連に行って、私は横浜の港の代表として行かせてもらって、経団連のお偉いさん方がずらっと並んでいるところで、「港の仕事って実は大変なんですよ、皆さんハマのプー太郎呼ばわりしてるけれども、実はそうじゃないんです。私は港湾経済学会という学会の一員でもあるし、勉強している中でなんとかこの港の実態を知ってもらいたい。また、港の悪いところも知ってもらいたい。それに皆さんにお世話になりたい。」ということを申し上げたら、「あんた今、港湾産業という言葉を使ったけど、港湾は産業じゃありませんよ。」という若い職員の発言がありました。「港湾産業という独立した言い方はちょっと難しいのではないですか。産業という言葉をつけるなら、隷属産業ですよ。いろんなものをやっている、百科百般が日本の国は動いているけど、いずれにしてもただ運ぶだけなんだ。」と、「輸入するだけ、輸出するだけ、それが産業だなんて生意気だ。」というような意味のことを言ったんです。初めて経団連行って、未だに取っ組み合いをやったのは、私だけらしいですね。

そんな子供じみたことも経験いたしましたし、また反面、いろんな角度で、港で仕事しててよかったな、これだけ私たちを守ってくれているんだな、これはもうご先祖様の港で働いて、港で血を流し、汗を流し、そして亡くなった我々の先輩たちが俺を守ってくれたな、というような場面もこれも数知れずございます。でも一番大事なのはやっぱりまとまりでしょうね。横浜市民の皆さんと、あるいは横浜のお役所の皆さんと、あるいはまた我々の生活圏を共にして、あるいは経済圏を一緒に担っている人たちと、一緒にこう何かできた時は嬉しいなと。

ベイブリッジができました。長い話は禁物だと思いますが、一言で申し上げますと、ベイブリッジができたということは、横浜にはいろいろな新しいことはその都度ございましたけれど、これができた時に私は横浜港というのはイメージがガラッと変わったということになるわけですね。私もおかげさまで、10代の時代から外国の港を独り歩きさせてもらって、あっちを見たりこっちを見たりしてフラフラしてきたんですけど、横浜港の特色というのはなんだって言うと、とにかく日雇いの人が大勢いる。京浜東北線に乗っかって、終点は桜木町。桜木町行ってあそこで待ってるのは必ず「さぁ仕事あるぞ、こっちへ来

い、俺の会社へ来い。」という、そういう求人の人たちばかりがあそこに毎朝いた。そこへ私たちの会社が「今日の仕事はもう人が足らないから、もういくらお金払っても連れて来るのだ。」というようなことで、もう相場無しの労働市場がそこにできておりました。ですが、人間を用意して「さぁ仕事だ」って時に雨が降る。仕事が当時ですからコンテナなんかありませんので、雨の中で荷役はできない。泣きました。一晩中みんな男泣きに泣くのですよ。苦労して苦労してお金を払って、私の先輩の年取った明治生まれの先輩たちが、本当に声を出して泣くのですよ。悔しいって、この雨が。という時代がありまして、報告するような中身とは違いますけども、いろんな苦労がございました。今は夜中に雨の音がしても平気で荷役業者は寝ていられる、これだけでも幸せな思いをしております。

また、方々から問い合わせがあって、例えば小学生、あるいは中学生、港の話をしろと。そこへ行ってはお話する。今日議長やっておられる石渡さんが今率いてる大学でも講演させてもらったこともございます。横浜の大学に入って新入生の、港の話を聞いてどんな感想を持ったかというとスリップがたくさん来て、読ませてもらうとこれこそ誠に涙が出る。新入生ですから、横浜のことはあまり知らない、私が下手な話ですけれども、いろんな話を面白おかしくいたしますと、横浜来てよかった、この学校入れてよかった、こんな素晴らしい港があるってことを初めて知ったという。想像していたり、今まで自分が理解していた横浜港と、今藤木のしゃべった横浜港と、こんなに違いがあるのかということで、横浜に住むこと、横浜の大学に入ったことを誇りに思うというようなスリップがありますと嬉しかったですね。

いずれにしても、今日このように中野局長が色々と旗を振っていただいて、横浜市として山中市長を始め、公務員の皆さんが横浜を再認識して、我々を集めてこのような会を持っていただいたことに感謝しております。お礼だけ申し上げてごあいさつを終わります。

【石渡委員長代理】

ありがとうございます。ちょうど10分でございました、ありがとうございました。

続きまして、坂倉委員からお願いいたします。

【坂倉委員】

商工会議所といたしまして、まとめた意見を申し上げたいと思います。山下ふ頭の再開発におきましては、横浜経済の活力をけん引し、将来にわたって持続可能な地域社会を構築するための新たな産業を創出することが不可欠であり、その中でも今後の成長が期待される観光産業の振興に寄与する再開発が重要であると考えているところでございます。

こうした前提を踏まえて、山下ふ頭再開発に関する６項目の意見について説明させていただきます。

まず初めに、横浜経済の核となる活性化拠点の形成であります。山下ふ頭の地区面積は47ヘクタールに及び、都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進していただきたいと考えています。

次に、山下ふ頭全体の一体的な再開発の推進であります。埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、みなとみらい２１地区のように街区ごとに区切って再開発をするのではなく、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進していただきたいと考えております。

この次に、これまでの再開発プロジェクトにより得た知見を活かした魅力的な施設の導入であります。数々の再開発プロジェクトを推進して得てきた多くの卓越した知見を山下ふ頭の再開発事業に活かしていただくとともに、防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入していただきたいと考えております。

次に、山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出であります。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街はもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進していただきたいと考えております。

その次に、旧上瀬谷通信施設跡地等のまちづくりと連携した、市内全域の活性化であります。2027年に国際園芸博覧会が開催される旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠であります。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図っていただきたいと考えております。

最後に、横浜市財政に寄与する税収効果と外国人材を含めた雇用創出の促進であります。新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現していただきたいと考えております。

以上が横浜商工会議所の意見となります。人口減少社会が到来する中、山下ふ頭の再開発は横浜経済の希望であり、持続的な成長・発展に不可欠なものだと考えております。当所といたしましては、ただいまご説明をさせていただきました６つの方向性に基づき検討が進められ、山下ふ頭の再開発が将来の横浜経済の活性化につながり、横浜市の財政基盤の強化に寄与するプロジェクトとなることを心から願っております。

以上でございます、ご清聴ありがとうございました。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。今新たな地区関係団体委員の中からお二方ご意見をいただきました。藤木委員におかれましては、総括的なお話でありまして、私の手元には実は15項目の箇条書きになったものが実はあるんですが、時間を配慮していただいて総括的なお話をいただきました。それから坂倉委員からは６項目、具体的に今意見書が出されましたけども、これにつきまして何か特段ご意見等がございましたら、挙手の上でご発言いただきたいと思います。いかがでございましょうか。

【全体】
（発言無し）

【石渡委員長代理】
今日はいきなり意見書ですから、これですぐにどうこうではないかと思いますので、こういったものが出されたということをもう一度記憶に留めながら、また皆さんで色々巡らせていただきたいと思います。特にWebの方も挙手がございませんので、今のお二方の意見を伺ったところで、次に進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

【全体】
（発言無し）

【石渡委員長代理】
特段無いようでございますので、議事の（２）につきましてはこれとして、次に移りたいと思います。
次の議事（３）に入ります。議事の（３）は事務局から報告をいただきますが、２つありまして、市民意見募集等の取りまとめ結果、そしてもう１つは横浜市の現状についてということで、これはスライドをもって説明していただきますので、それぞれ事務局の方から２つの項目について説明をお願いいたします。

【竹内部長】
はい、市民意見募集等の取りまとめ結果につきましてご説明いたします。前面のスクリーンに写し出す資料でご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも配布しております。
山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に当たりましては、三方を平穏な海で囲まれた広大な開発空間、優れた交通利便性等、山下ふ頭の高いポテンシャルを最大限に生かし、市民の皆様のご意見を反映させた、かつ事業成立性の高い計画とすることが必要と考え、2021年から2023年にかけて２回にわたり、市民意見募集、意見交換会及び事業者提案募集を実施してまいりました。その結果概要を第１回より順にご説明いたします。
はじめに、第１回市民意見募集です。再開発のイメージ、ふさわしい導入機能、再開発に取り入れる視点について、択一式アンケートを行うとともに、自由意見を伺いました。結果、3,700件を超えるご意見を幅広い年代の方からいただきました。択一式アンケートを集計したものが左の棒グラフになります。自由意見を分析したものが右の図で、ご意見が多かった単語ほど文字が大きくなっており、頻出単語を明らかにしております。再開発のイメージでは、海・みなと、国際性などをメインテーマとしつつ、文化や歴史、海と緑の調和などの視点を取り込むことも必要、ふさわしい導入機能では、エンターテイメントや水辺・親水などの機能を複合的に導入していくとともに、観光・交通の充実も必要、再開発に取り入れる視点では、持続可能なまちづくりなどの視点に加え、市民への還元、防災や環境対策の充実などの視点も必要といったご意見の傾向が見られました。

続きまして、意見交換会です。まちづくりのテーマ、ふさわしい導入機能について、ワークショップを行いました。４回開催し、幅広い年代の方に参加いただき、多くのご意見をいただきました。意見交換会において、付箋でいただいたご意見を分類、整理したものが下の図です。まちづくりのテーマでは、シンボリックな空間の創造と横浜の歴史や文化を生かしたまちづくり、子育て・教育にも配慮した市民のための再開発などのご意見、導入機能では、スポーツ・音楽等を中心とするエンターテイメント施設、最先端技術等を扱う企業・大学・研究開発施設などのご意見の傾向が見られました。

次に、事業者提案募集です。企業・大学等のイノベーション施設を中心とした提案として、キャンパス型オフィスなどを導入する案、大規模集客施設を中心とした提案として、国際展示場やマルチアリーナなどを導入する案、緑を中心とした提案として、緑や水素発電・浄化システムなどを導入する案をいただきました。また、開発に関する主なご意見等として、周辺地区の開発促進やアクセス強化などをいただきました。以上が第１回の結果概要となります。

第１回の市民意見募集では、「市民意見を反映し、その結果を踏まえ、広く事業者から提案募集をするべき」とのご意見をいただいたことから、改めて事業者提案募集を行うとともに、より具体的な再開発のイメージや導入機能などを伺うため、市民意見募集や意見交換会を行うこととしました。

第２回の市民意見募集では、第１回よりも具体的な再開発のイメージや導入機能などを自由意見で伺い、1,200件を超えるご意見を幅広い年代の方からいただきました。いただいたご意見を、「海・みなと」といったテーマだけではなく、「海や港の景色を眺められる」「船が停泊する」といった、より具体的なレベルで集計・分析したものがこちらの図です。類型化した意見をテーマごとに集積して色分けしており、意見が多かったものほど、面積が大きく表示されています。具体的な再開発のイメージとしては、「幅広い世代が楽しめる」「市民が利用できる」「自然が豊かである」などのご意見が、具体的な導入機能としては、「公園」「レジャー施設」「ショッピング施設」等のご意見が多くみられました。また、再開発のイメージや導入機能に関するご意見について、それを提案した理由との相関を分析したところ、「市の収益の向上」「人が訪れる」「周辺地域と連携する」などが提案の大きな理由となっていることがわかりました。

続きまして、意見交換会です。市民意見募集と同様に、より具体的な再開発のイメージや導入機能などについてワークショップを行いました。５回開催し、こちらも幅広い年代の方に参加いただき、多くのご意見をいただきました。こちらは再開発のイメージについて、グループから出されたご意見を多かった順に左上から並べています。「市の収益の向上」「横浜ブランドを創る・高める」「市民が楽しめる・利用できる」などのご意見が多くのグループから出されました。導入機能については、先進性やブランド力の向上等を期待して「学術・研究開発機能」、観光や市の収益の向上等を期待して「大規模集客施設」などのご意見が出されました。

事業者提案募集では、スポーツ・コンサート等のエンターテイメント施設を中心とした提案として、アリーナやコンベンションホール、マルチアリーナ、エンターテイメント施設などの提案、体験型テーマパークを中心とした提案として、陸上クルーズ船や文化体験

スタジオ、アミューズメント施設、展示館などの提案、国際展示場等の施設を中心とした提案として、大規模な国際展示場を核とした提案がありました。

最後に、これまでの市民意見募集・意見交換会で市民の皆様からいただいたご意見をまとめたものがこちらになります。まず「市民が主体」を趣旨として、「市の収益をしっかり確保」、「市民が楽しみ、利用できるように」、「子育て・教育につながるまちに」といったご意見、「港ヨコハマの象徴」を趣旨として、「横浜ブランドを創る・高める」、「いろんな人が訪れるまちに」、「周辺地域との連携を」、「山下ふ頭のもつ特性を活かす」、「交通機能の充実で利便性の向上を」、「港町ヨコハマらしい景観づくり」といったご意見、「持続的なまち」を趣旨として、「持続可能なまちづくりで次世代につなげる」、「海や緑などの自然が感じられるまちに」、「防災や環境対策もしっかり」といったご意見をまとめています。こうした市民意見や先ほどご紹介しました事業者提案の内容を踏まえながら、委員会での議論を深めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きましてファクトシート【横浜市の現状】について、ご説明させていただきます。目次の５項目について、ご説明させていただきます。

まず、人口動態です。世界の人口は、増加傾向にあり、2060年には100億人規模に達する見込みです。アジアの人口も増加傾向で推移しますが、日本の人口は減少が見込まれ、2060年頃には１億人を割り込む見込みです。

横浜市の将来人口推計です。推計では、2021年に約377.9万人でピークを迎え、その後減少傾向にあります。全国と比べて人口の減少カーブは緩やかとなる見込みです。

横浜市の年齢区分別の人口推移です。年少人口と生産年齢人口は、減少が続き、高齢化率は、増加が続くことが見込まれています。これらから経済活力の低下、個人市民税の減少、社会保障費の増加が見込まれます。

地域別に見た横浜市の転入・転出者数です。全体としては、転入超過となっており他の道府県や国外等からの転入が多くなっています。その中で、東京都区部と川崎市は、コロナ禍前の2019年は転出超過となっていますが、2022年は転入超過となっています。

昼夜間人口比率・就従比率の都市間比較です。東京都特別区部、大阪市、名古屋市と比べると、横浜市の昼夜間人口比率・就従比率はともに低く、それぞれ100を下回っております。通勤・通学等で市外への流出が多くなっています。

横浜市の財政状況です。市税における税目別収入額の推移です。人口減少により個人市民税を中心に市税収入の減少が見込まれています。

主な税目別内訳の政令市との比較です。大阪市、名古屋市と比べ、個人市民税の割合が大きく、法人市民税の割合が小さくなっています。

法人市民税の推移と直近の企業誘致の主な実績です。法人市民税は2019年以前では、企業誘致などから収益増傾向となっています。以降、コロナ禍の影響や税制改正により減収となっていますが、現在は回復してきています。

一般会計歳出予算額の推移です。社会保障経費は、高齢化の進展とともに、2045年頃にかけて支出が増加する見込みです。

市民一人当たり一般会計予算額の政令市との比較です。大阪市、名古屋市と比べ、市民

一人当たりの予算額が低くなっています。
　将来の収支差の見通しです。社会保障経費の増加や市税収入の減少により、今後、収支差が拡大し続ける見込みです。
　横浜市の経済状況です。経済成長率の推移ですが、2020年度まで概ね全国と同様の推移をしています。国は、2021、2022年度とプラスに転じています。
　日本の産業構造の変化です。グラフは経済活動別のGDP構成比です。第３次産業の割合は増加傾向で、近年では第１次、第２次産業の合計は３割に満たない構成です。
　横浜市の産業構造の変化です。全国と同様に第３次産業の割合は増加傾向で、近年では第１次、第２次産業の合計は２割に満たない構成です。
　経済関連指標における都市間比較です。東京都、大阪市と比べると、横浜市では、市内総生産や事業所数、法人市民税収入において、差があります。
　観光実績についてです。2019年の横浜市の観光入込客数は約3,634万人でした。コロナ禍で急減した後、回復傾向となり、2022年は約2,922万人に達しました。観光入込客数を内訳でみますと、日帰り客の比率が高くなっています。また、コロナ禍前の平均消費額では、宿泊客は約27,700円、日帰り客は約6,800円となっています。
　神奈川県の外国人宿泊者数です。全国、東京都、大阪府と比べ、外国人宿泊者数が少なくなっています。
　交通ネットワークについてです。首都圏の広域ネットワークの一つとして圏央道があります。東名高速、中央道等の放射状に延びる高速道路等と一体となって広域的な幹線道路網を構成しています。
　生活や経済を支える交通ネットワークです。
　横浜経済の更なる発展と国内外からの人・投資を呼び込むため、道路や鉄道、港などの整備を推進しています。
　資料の説明は以上となります。

【石渡委員長代理】
　今２種類の資料で、資料５では市民の皆様からの意見をデータベースに落とし込んで字の大きいものというのが一番多いという形でイメージ図として表現していただいたものが説明されてきました。かなり幅広にというところで、資料として読み切りにはなかなか大変だと思いますが、意見をまとめたものは資料５の市民意見データベースのもの。その後はファクトシートと称して、市の実態、いわゆる人口動態であったり財政状況であったり経済状況であったり観光実績、交通ネットワーク等、まさに実際の数字、実数を基礎データベースにして表現したものであります。この２種類の説明がございましたけれど、これにつきまして何か個別にご質問等がございましたら、いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【北山委員】
　いいですか。世界の人口動態なんですけども、アフリカを抜いた世界の人口動態を示して欲しい。世界の人口はまだ拡張していくと書いてありますが、都市化が進んだところで

は人口減少し始めてるはずです。特にヨーロッパ。アメリカは流入人口で増えてますけども、基本的には都市化が進んでいる地域は人口減少が進んでいる。文明がどのように変換してるか見ようと思うとその辺りを示していただいた方が分かりやすいと思います。

【竹内部長】
貴重な意見どうもありがとうございます。次回の委員会に際して、またそういった資料の方をご用意させていただければというふうに思っております。ありがとうございます。

【石渡委員長代理】
今、北山委員から要望がありましたので、また次回反映していただければと思います。今河野委員が入られましたけど、河野委員大丈夫ですか、聞こえますか。はい、よろしくお願いいたします。他にいかがでございましょうか。

資料もまた読み込んでいただいて、まだまだ不足の分やら表現の仕方に問題があるとか、いろんなご意見もあろうかと思います。読み込んでいただいた後、次の委員会等にまた反映させていただければと思いますが、何か。涌井委員どうぞ。

【涌井委員】
財政のところで、もしよろしければふるさと納税による流出額がどのぐらいなのか、それをちょっと教えていただきたいと思います。

【中野局長】
よろしいでしょうか。

【石渡委員長代理】
お願いします。

【中野局長】
今ちょっと数字は持ち合わせていないんですけれど、全国最大で50数億だったというふうに記憶しております。またこのデータも次回お見せさせていただこうと思いますので、よろしくお願いします。

【涌井委員】
はい、ありがとうございました。

【石渡委員長代理】
ふるさと納税の支出の部分ですね。この負の部分を表現してもらいたいということの要望でございます。他にいかがでございましょうか。Webの方どうですか、よろしいですか。
それでは、今、北山委員それから涌井委員からの要望がございましたので、次回までに

反映をしていただきたいと思います。はい、どうぞ平尾委員。

【平尾委員】

人口の話を伺いましたけども、もう１つ横浜にとって大事なことはやっぱり企業の数がどういうふうに動いてるのかと。これはアトキンソンさんが色々と発言されてることですけども、企業数が増えてるのか減ってるのか、あるいはそれが産業別にどうなってるのか、ということ。それからもう１つはその中でベンチャー的な企業が、イノベーションを担うベンチャー的な企業がどういうふうな存在をしてるのか。この辺を少し教えていただきたいと。次回で結構ですけども。

【中野局長】

その辺の数字も次回お示しさせていただきます。先ほど流出額が50億程度というふうに申し上げたんですが、今ちょっと調べましたら230億ということでございまして、かなりの金額でございました。失礼いたしました。

【石渡委員長代理】

はいありがとうございます。今、平尾委員からは企業数の増減とその業種と、それからその中にイノベーション的な、ベンチャー的なものがどういうふうに分布されているのかということも調べて欲しいというようなご要望でございました。他にいかがでございましょうか。

この場においてでなくても、また何か各委員からご要望があれば事務局の方に要請をしていただいて、次回に反映していただければと思います。他に皆さんここに会場にいらっしゃる方それからWebの方でご質問・ご意見ありますか。よろしいでしょうか。それでは今のお三方からのご意見を次に反映させていただきたいと思います。

それでは次の議事、４番目に移りたいと思います。議事４番目につきましては、学識委員のプレゼンテーションということで、始めに前回時間の関係で延期になってしまったということもありますので今村委員からお願いをしたいと思います。その後、アトキンソン委員からお願いするという順番でお願いします。それでは今村委員よろしくお願いします。

【今村委員】

今村でございます、よろしくお願いします。今回のプロジェクトに関しまして、具体的なアイデアをこれから皆様と色々と検討してまいるわけですけども、その大前提として私からは都市開発の専門的な立場から近年の東京圏の都市開発の考え方や進め方について、過去と大きく変わった点について、その概略を話してみたいと思っております。

現在も日本の国内各地で土地開発が盛んに計画されております。東京都心部でも戦後高度成長期に急拡大してオリンピックの前後やバブル期に大量のオフィスビルや高層住宅、商業施設など開発されました。現在もこの図のように大規模開発は次々と予定されておりまして、さらに今後50年程度まで計画があると言われております。

しかし、東京圏の都市開発は実は過去のものと大きく変わりつつあります。過去の都市開発ではその目的は人口の増加と経済成長の受け皿としてでありましたが、つまり増えた人口が働く場所、住む場所、楽しむ場所を開発し、提供し、その消費需要を含めて経済成長を下支えするものでした。また、都市開発の資金は自治体が市民から集めた税金、すなわち手元資金、自治体が発行した公債、つまり借金、開発に参加する国内企業の自己資金、そして銀行からの借金、それらを複合させることによって成立させるケースが多かったと思います。

しかし、こうした都市開発の目的や資金集めの方法はこれまでの人口増加時代であった頃だからこそ上手くいったものでありました。今から100年前、日本の人口は6000万人ぐらいでした。それからどんどん増えて、横浜市が都市開発６大事業計画を発表した頃には日本の人口は１億人まで急増しました。さらに増えて、現在は１億2000万人ですから、結局この100年でほぼ倍増したことになります。しかし、昨今の少子化に伴って、日本の人口はこの先100年後には4、5000万人程度に縮んでしまうという国の機関からのこうした推計が出ています。つまり、人口急増時代の都市開発と人口急減時代のこれからの都市開発では根本的にその目的や方法も変化していくということになります。

地域の定住人口が減っていくわけですから、これらの都市開発はその目的はビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する、そうした都市開発、まちづくりが主流になってくるということです。都市開発の資金は人口減で市民税の税収がだんだんと減っていきますので、自治体財政の負担を軽減し、法人税などで税収増を補っていくような新たな仕組みづくりが必要です。20年前ほどから日本の不動産を国際的な投資商品として扱うことができるよう、いわゆる不動産の証券化の法的な整備が進み、海外からの投資資金が入ってきやすくなっておりまして、先ほどの東京都都心部の再開発でもこうした資金が積極的に活用されております。国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要になってまいります。

説得力がある開発ストーリーに向けて、今回の委員の先生方や関係者の皆様から色々とアイデアをご提供していただくこととなりますが、なぜ山下ふ頭再開発が完成すると国内外の人や企業を魅了し、吸引しうるのかを意識するのが大事だと思っております。横浜は東京都心のコピーである必要もありませんし、サブ的な存在ではないと思っております。東京圏１都３県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う、そういう観点が重要と思っております。

横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史がありますし、独自の都市文化、地理特性が備わっております。こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべきだと思っております。

こうしたストーリーに向けて、視野を広げていくことも重要です。これは、山下ふ頭は東京ドームの10個分、47ヘクタールありますから、これだけを集中して見ているとどうしても、この広大な面積の有効活用だけに注目しがちですが、もっと人工衛星くらいの目線で見てみますと、前回寺島委員長と横浜市港湾局の中野局長のお話に関連しまして、東京湾の６つの港、２つの空港の機能全体を見渡して、物流や人の移動の役割分担の進化を見

たり、先ほど国際的な交流人口、インバウンドの吸引の話をしましたが、成田空港や羽田空港に到着された海外からの方々が色々な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべきでしょう。

羽田空港周辺を眺めますと、川崎市側の殿町というエリアにはライフサイエンスの環境分野の新産業創出する拠点が開発されていますし、西側の天空橋ではコンベンション施設を含む羽田イノベーションシティができています。また、北側の京浜島では大田区が次世代の産業拠点としての新しいまちづくりのビジョンを策定されています。

こうしたことを踏まえて、これまでの横浜港周辺での開発された各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、さらに扇島のＪＦＥスチールさんの工業用地の今後の大規模再開発動向などなるべく視野を大きく見ていった形で山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくると思っております。

例えば、東京では中央卸売市場が豊洲市場に移転しましたが、場外市場は築地にも残されて観光客で大変賑わっています。一方、場内市場の跡地には野球など多目的のスタジアムを持ってきて、ホテルや住居、オフィスを組み合わせるなどという再開発の案があるようです。そうした事例等もヒントにすると横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつける、そんな大がかりなアイデアも今後たくさん出てくると思ってます。

これらは今回の山下ふ頭周辺の用途地域が示された図で山下ふ頭や大黒ふ頭は商業地域に定められています。横浜市全体の話になりますが、それぞれの地域にはこのようにこれまでの歴史的な経過を踏まえて土地の使い方、制度上の用途地域というものが定められています。しかし、この先の人口減少を迎えて横浜市の各地域ごとの未来の姿を長期的に再考していくことになろうと思っております。横浜市の財政は2029年度をピークに減少してまいります。今のうちにあらゆる対策を実行しなければなりません。特に横浜市自身が保有している市有地は部局をまたいで長い時間軸で考えられ、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していくと思います。その全体として、市全体のグランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えも行っていくべきでしょう。加えて、都市開発の一方で市域の７パーセントにあたる農業地域は2,900ヘクタール、山下ふ頭の約80倍あります。人口減少で農業の担い手が急減する中での横浜市の食料自給率のアップ、例えばDXを活用した収穫量の増大、営農型太陽光発電のソーラーシェアリングによる収支改善などの対策検討も市がしっかりとしたリーダーシップを持って進めていただきたいと思っております。

今後の都市開発による税収規模の維持については、これはイメージ図ですが、横浜市全体で長期的な都市機能のグランドデザインの再整理を含めて市が保有する土地資産を積極的に活用し、国際的な都市資金を誘引する都市開発を実現させることで横浜市内に企業が増加して法人税が増加し、また交流人口も増加してお金を使っていただける。これによって税収規模が維持できて、インフラの劣化なども上手にメンテナンスできる。人口の減少による市民税の減収にも耐えうる。こういったフローを実現していくことがこれからの都市開発のあるべき形と考えている次第であります。

山下ふ頭の再開発をこのような大きな観点で捉えて着実に推進するためには、現在の港湾局さんだけの枠組みではなく、横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要だと思っております。

あわせて、今後のプロジェクトの推進に当たっては市民参加と積極的な情報発信が重要という話を申し上げます。まず、市民の皆さんや関係者の皆さんが横浜市の一員として参加されますよう巻き込んでいく仕組みが重要であります。その上でメディアの皆さんにもご協力いただいて、プロジェクトの検討経過を積極的に対外発信し、社会全体の関心を集めていくことです。その過程で今回のように専門家の方々に多様な角度から最新の知恵を出し合っていただき、市民の関係者の声から前向きなフィードバックを受けていく。グランドデザインに沿って事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高くなったことでプロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業に向かっていきます。

全国の政令指定都市は20市あります。そのうち、横浜市が１番人口が多い市ですが、それに続く大阪市、名古屋市、札幌市、福岡市など今後の都市計画のモデルとなるよう、モデルケースとして参考になっていくと思っております。

以上、私からのお話は今後の議論を進める上での考え方をお示ししました。都市開発ではこうした出発点での大きな展望、大きな考え方の枠組みで皆でしっかりと共有することはとても大事です。

まとめですが、今回のプロジェクトの実現に向けて、横浜市全体での各エリアの都市機能を再構築し、山下ふ頭再開発の位置付けを再設定することを起点として、各局が横断したプロジェクトを作り市民の皆様とともに対外的な情報発信と企画精度向上を実現されることでプロジェクトの成功確率が高まり、全国の政令指定都市、多くの自治体のモデルケースになっていくよう期待するところであります。最後になりますが、山下ふ頭の再開発がトリガーとなって今後の人口減少時代における財政運営を中心としてお子さん、お孫さんたちの世代まで続く、あらゆる施策を立案、実行していることを切に希望いたします。私からは以上であります。

【石渡委員長代理】

はい、ありがとうございました。続きまして、アトキンソン委員からプレゼンをお願いしたいと思います。一部資料の差し替えをするようですので、少しお時間をいただけますか。今、データをパソコンに落とし込んでますので、ＯＫですか。はい、ではコントロールキーをお渡ししますのでよろしくお願いします。はい、お願いします。

【アトキンソン委員】

小西美術のアトキンソンです、よろしくお願いいたします。多少話がダブるかと思いますけどお許しくださいませ。

私は観光の観点で今日発言をさせていただきます。国のインバウンドの委員会にたくさん参加させていただいていますけど、そもそもそのインバウンド戦略をなぜやっているのかという観点から、まずそこからご説明をしたいと思います。それがここに出ていますよ

うに、人口減少に対応するためにできていると思います。
まず、日本の人口が大きくは減らないですけど、生産年齢人口が、全体の人口より大幅に減ります。すでに1995年のピークから2023年の間に1,402万人も減っています。これ全国の基準です。生産年齢人口は16歳から65歳までの人口を指すのですけど、観光客の大半はこの年齢の人ですので、この年齢が大きく減ることによって、横浜市内の問題だけではなくて、実際に観光して来てくれる人たちの影響を受けることになります。
しかし、この赤い線に書いてありますように、2023年から2060年の間にさらに日本の生産年齢人口が2,896万人減ると予想されています。併せて、4,298万人が減ることになります。消費ということになりますと大半の個人消費はこの人口ですので、40％ピークから減っていくことによって経済を支える最大の個人消費に大打撃を与えることになります。
先ほどのご説明にありました全体の人口はそこまで減らないっていうところですけど、なぜかというとご覧のように、大体90年辺りから高齢者の人口が倍増していまして、さらに2020年辺りから高齢者の中で高齢化が進んでいます。ですから75歳以上の人口が2015年当たりから65歳から74歳の人口を上回ることになっていまして、65歳以上の観光の流入はありますけど、75歳以上になりますと、観光する確率がどんどん下がっていきますので、全体の人口よりはこの現役世代と言われる生産年齢人口に注目するべきものだと思います。
それでなぜ問題なのかというとこの社会保障費の激増が問題になっています。1990年の時に、全国としては47兆円くらいの社会保障費の負担だったのですけど、2023年は134.3兆円まで激増しています。これGDPに対して23.5％が経済から吸い上げられていて年金と医療費を中心に社会保障に充てられていますので、現役世代に対して相当の負担になっていることは間違いないです。
これを一人当たりに落としますと、1990年、生産年齢人口１人当たりに対して55.1万円の平均だったのですけど、2000年で90.6万円、2010年で128.3万円、2020年で177万円まで増えています。2060年、今の社会保障金額を横ばいとした場合に304万円になりますけど、今までの伸び率からすると、おそらく400万を超えてしまうということになりますので、今の日本人の平均年収が420万くらいですので、ほとんど全部が税金でとられてしまうということに結論としてなります。
この中でどうすればいいのかというと、言うまでもなく人口を大きく増やすことはもう不可能になってしまっている中で、賃金を増やしていってこの負担増に耐えるような形に持っていかなきゃいけないということが一番の問題になります。そうするとインバウンドのところで日本人の人口が減ってきますので、地方の観光地にとっては日本国内の人口で維持することは不可能になっていって、問題になっていく、潰していくしか方法がないというような結論になることを避けるために、日本以外のところで79億人の外国人がいるわけなので、そのごくごく一部の人達に毎年来てもらうことによって、日本国内の観光客の減少を補填していくことができると同時に、よりその稼働率を高めていけるということで、インバウンド戦略が実行されてきました。
ただ、ご覧のとおり、1990年のインバウンドの外国人観光客は324万人でした。2011年、今現在のインバウンド戦略が始まる前の年までは836万人まで増えてはいます。要するに、

2.6倍に増えていますけど、22年間に2.6倍に増えているだけです。で、ご覧のように2012年以降激増していまして、2012年の836万人から2019年のピークで3,188万人まで増えています。要するに22年間で2.6倍、平均して毎年4.4％の増加だったものが、７年間で3.8倍、年率で21.1％の増加に上がりました。手前味噌ではありますけど、当事者の１人としてなぜこうなったのかということはこの再開発に十分参考になるんじゃないかと思うのです。

要するに実際の観光魅力としてはほとんど何も変わっていません。いきなり４倍になることはありえません。何が起きたかというと、観光の考え方を根本的に変えました。その第一が、この時代の前までは観光は世界平和のためであると、光を見るための産業であるっていうことが言われていたのですけど、それだと外国人は来ません。歴史・文化を中心としたものではあったのですけど、歴史・文化というのはそんな魅力があるわけではないのです。そうするとこれをビジネスに変えまして、観光の魅力はなんなのかと徹底的に分析した結果、インフラ投資と整備を中心としたもので多様なアピールをすることに変わりました。歴史・文化を中心としたものではやっぱりあまりにも多様性がないものですので、そんなに惹き付けるような、先ほどの話ありましたような、魅力はありません。その時に、都市の文化、要するにショッピングであって、ナイトライフであったり、あとは和食にとどまらない日本の食文化、それにアクティビティ、日本の国立公園を中心とした素晴らしい大自然、ビーチ、山、スキーとか、ハイキングとか、いろんなアピールをすることによって、たった７年間で４倍にすることができたのです。

もう１つあるのは、その時は例えば文化庁の内部の組織を見れば分かりますように、昔は例えば文化財の保存がメインだったのですけど、今組織改革をした後に、今観光資源の保存と活用が資源活用課というところができてきて、やっぱ両輪にしないといけないということで、同じことで、保存だけではなくてやっぱり活用することによって、独立かつ持続的な採算がとれるようなやり方に切り替えています。

その１つで、宿泊をどう考えるかという先ほどの話ですけど、観光収入の半分は宿泊と飲食です。どうやって宿泊させるのかというのは最大のポイントでありまして、横浜も奈良市もそうですけど、別のところに近い、宿泊してもらえない、要するに日帰りだけをするということは、観光客の数は来ますけど、経済にはほとんど貢献しません。そうすると、宿泊をどうやってさせるのかっていう戦略に切り替えなければいけないわけなので、例えば奈良市の場合は交通の便が横浜同様あまりにも良すぎちゃってみんな日帰りをします。それで観光戦略の一つとして何をしたかというと、１番最初の電車は８時半に着きますので、８時半の前に開催するイベントを作ったりすることで前泊しないと参加することができません。こういうずるいことも考えなきゃいけないことも事実としてあります。観光戦略を考えるに当たって、宿泊施設をどうするのか、あとどうやって宿泊させるのかということを戦略的に考える必要があると思います。

結論から言うと、常に人が集まる施設にしなければならない。魅力を高めることによってどうやって宿泊してもらうのかということを最初から徹底的にそれを考える。そしてその次にありますような付加価値の高さを重視する。人が来て日帰りをするだけではゴミだけ落とされて、お札を落としてもらえない戦略はほとんど何の意味もないと思いますので、やっぱり付加価値の高い開発をしなければならない。

その次としては、築地の再開発の委員会もさせていただきましたけど、まとまった土地がなかなか日本国内に出てきませんので、もう何十年に１回しかチャンスがないわけなので、人口減少の話をした理由がそこにありまして。まとまった土地を再開発する時に40年先、50年先のことを考えた上で再開発しなきゃいけないので、短期的な目線でやって、後でまたやればいいっていうことで、そういう考え方はやはり難しいというか、しないことだというふうに思います。

国内外にとって魅力的な施設であるということなのですけど、インバウンド戦略をやっているうちに、観光客のために必要なものであって魅力的なものであることを言っていても、そういうところはインバウンドのためだけということを批判されることがありますが、実は今までインバウンド戦略でやってきたインフラ整備や投資は、それ以上に実際に活用しているのは実は日本人です。ですから外国人に魅力的なものというものは、国内にも魅力的なものなので区別する必要があまりないということで、国内外にとって魅力的なものであるというふうに思います。

先ほどの市のプレゼンにもありましたように、今の時代で人口減少することによって、これ一番ポイントなのですけど、人口が減っていく中で経済を維持していくために何が必要なのかというと、地元の賃金を上げるしか方法がないのです。人が減っていって税収が減って欲しくないということであれば、賃金を上げてもらって、その分だけ税収が増えるわけなのですけど、どうやって賃金を上げるということが一番大事なのです。宿泊のこともそうなのですけど、先ほど申し上げたように、ゴミだけ落とされて県内の賃金が上がらないような観光戦略というのは私としては無意味なものだと思います。そういうふうに考えると、財政の負担にならないように貢献してもらうことも含めて考えるべきものであって、それどういうものかっていうことはこれからの議論なのでしょうけど、県民の賃金をどうやって上げるのか、そのために何が必要なのかということを最大の焦点にしてこの再開発を進めるべきではないかと私は思います。以上です、ありがとうございます。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。今お二方からプレゼンがございました。お２人共通しているところは、人口減少は避けて通れないという中で、またそれから高齢社会というところ、それをもとに今村委員からは都市に向けての再開発のご意見、それからアトキンソン委員からは観光とそれから賃金を上げるということで具体的な収入についてのものと、それから財政に貢献していかなきゃいけないとか、まとまった土地をこのように50年先を見据えてというような、幅広ではありますけど、１つの参考になる意見をいただきました。さて、この２人のプレゼンをいただきましたけど、何か皆さんの方からご質問やご意見ございますでしょうか。

それでは北山委員、どうぞ。

【北山委員】

今村さんの方から、問題の枠組みについて非常に大事な話がされたと思います。今、山下ふ頭の検討委員会をやってますけど、山下ふ頭だけの話ではない、もっと広域の問題で

あると。横浜市の問題としては、郊外の農地がかなりあって、特に介在農地になっている、そういうところに都市型農業の可能性があること。それからエネルギーの話もされましたけど、市の財政を考えていく時にこの山下ふ頭に何かを負わせて考えていくというのではなくて、市全体のもっと広域の問題として捉えていこうという、そういう枠組みの話があったと思います。これは非常に大事なところで、山下ふ頭の開発で市の財政が良くなるとかそういう話をする場所ではないと思います。

もう１つは建て付けの問題で、検討委員会を今港湾局がやっているわけですけど、港湾局だけでやってもダメだろうという話がありました。これは都市の問題ですから、市全体の問題ですし、広域の問題なのです。かつては横浜市には企画調整局というのがあって、部局を横断して都市の問題を解決していくというような、そんな部局を作っていました。そういう意味では、今回は港湾局が担当部局になっていますけど、そこだけでやっていくとファクトデータも全部港湾関係になりますし、今回地域関係団体の方を呼ばれるというのもこれも港湾局の方で考えられたと思いますが、やはり港湾関係の方がやはり大きい場所を占めてくるような気もします。そういうこの会議自体の建て付けの問題も今村さんからされていたと私は思いました。

それと人数が今回から地域関係団体の方が６名増えて16名に増えてます。人がちゃんと議論できるのって10人以内であるという熟議の民主主義という概念がありますが、人数が増えてくると議論ができなくなる。僕は地域関係団体の方が議論することはとてもいいと思いますが、それは別の委員会であってよい。そういう検討会があると同時に、他にも広域の方の委員会もあってよい。この横浜のインナーハーバーに関しては、いろんな関係を持って横浜のイメージ・アイデンティティを作る場所ですから、重要な場所です。そういう場所をどうするかっていう問題をもっと広域に話ができるような会議のシステムが必要じゃないかと思いました。

今村さんの話を伺いながらそういうふうに思いました。ただし、今村さんは東急総合研究所なので、渋谷の巨大再開発をやられていますが、これが人口減少時代の都市の作り方に本当に合致するのかは疑問です。容積を異常に増やして巨大なものを作ってますけど、人口減少する時代にあんなことをやってていいのかなんていうのは個人的には思っております。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。いろんな時代の流れでフェーズがありますけども、時の流れと現実、リアリティの流れがこうマッチングしていない分で、錯誤、錯綜する部分もあろうかとは思いますが、今北山委員からは今後の進め方、取り組み方についてのフレームワークみたいな話もありましたので、この辺もまたご一考いただければと思います。

他にいかがでございましょうか。

【藤木幸太委員】

いいですか。

【石渡委員長代理】
はい、どうぞ。

【藤木幸太委員】
今、北山委員のお話の中で、やはり地元ですね、これがあまりこう委員会の中に多く入るのはけしからんというようなお話を伺ったんですけど、例えば我々港湾が多いのは当然今まであそこを使ってた人間として、出していただいているわけですけど、決してそこで利権を主張したりそういうことは北山さんございませんので。むしろ今、今村委員とかデービッドアトキンソン委員に伺ったようなよりグローバルな、それと新しい社会に合致した、こういう開発を我々望んでますので、ぜひその辺は誤解のないように思うんです。

【北山委員】
僕、別にけしからんと言ってるわけではございませんので。

【藤木幸太委員】
それともう１つ、とてもこれはポイントなんですけど、どうも今まであそこカジノってことで注目を浴びた場所なんですよ。そのカジノをどうするかっていうんで８人も市長候補が出て、横浜市を二分するようなことになりまして。本来そんなことじゃなくて、むしろ飛鳥田市長が昔おやりになったような６大計画とか、そういうものをしっかり歴代の市長が作るべきだったんですよ。で、歴代市長は飛鳥田市長が出された６大計画、これをしっかり１つずつ消化して、見事に成し遂げたと思うんです。その次、中田市長の時代にグランドデザインをもう１回やらなきゃいけなかったんです。その時に港が例の150周年記念というのをやって、これで新たな100年後の横浜港の姿なんていうのを書いたんですけど、これも本当に絵に描いたような餅で、何も実現なんかしないようなものを描いたわけですね。そうじゃなくて、今回はグランドデザイン、これは先ほど委員の方、皆さんの口から出てますけど、やはり横浜の、横浜港あるいは横浜市全体のグランドデザインをもう一度しっかりこの委員の方たちの知見をお借りして、しっかりと議論していただきたいと私はそう思っております。その中で、特に港湾だけに関して言えば、今あのエリアはインナーハーバーと呼んでおりますけど、このインナーハーバーは例の瑞穂ふ頭なんかもあるわけで、この接収解除の問題、こういうことも横浜市は全然積極的にやってないんですよ今まで。こういうことも含めて、やっぱり市が全体で何を目標にしてやるかっていうことをもう少し一体的にやっていただかないと、特に瑞穂ふ頭があれば、じゃあカジノをやるんだったら瑞穂ふ頭でやってもよかったわけですし、やはりどこで何をすべきかっていうグランドデザインがないと、山下ふ頭の話だけでどうしてこんなここにこれも欲しいあれも欲しいってことを言うんでしょうかね。その中で一番気になる言葉は効率化ってやつなんですね。効率的なものはあの47ヘクタール、たかが47ヘクタールで効率的にしたいと、ホテル作りたいとかいろんな話出てきますよ。そうじゃなくて横浜全体の、さっきデービッドさんおっしゃったように、横浜全体のブランド価値を上げる、ここで泊まらなきゃいけないぐらいのものにするというためには、例えば山下ふ頭を１つの公園にしちゃって、もう

鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与してくるんだというようなものを考えるとか、そういう話をぜひこの委員の方に意見としてお出しいただきたいと、こういうふうに願っている１人でございます。

【北山委員】

今お話がありましたけれど、ここのテーマが再開発検討委員会になっていますけれど、再開発ではなく、開発をしないという提案もあるはずなんですよね。これはネガティブマスタープランという概念があって、ここに建物を建てさせないというような、そういう計画をするというのもあります。

実は横浜の港の見える丘公園っていうのが、山下ふ頭の前にありますけど、あそこから港が見えなくなったら、港の見える丘公園はどうなるんだっていうことになりますよね。あれはちょうど高さ40mくらいのところにあると思うんですけど、それは横浜市が1970年代に都市デザイン室で視点場、ヴィスタコリドーとヴィスタポイントっていう、どこから何が見えるかっていうことをやってきたんです。

それは何かを作るという計画ではなくて、何かその視線がちゃんと通る、何かが見えてるということが大事だという都市デザイン思想で作られてる不思議な都市なんです。

それを忘れないようにしてほしい。だから特に港の見える丘公園から見た時に、港がちゃんと見えるようにここには作らないようにしようというようなことを決めるってことはあると思います。

【アトキンソン委員】

いいですか。

【石渡委員長代理】

はい、どうぞ。

【アトキンソン委員】

今まさにお話にありましたとおりで、観光の観点から言うと、今、幸太さんがおっしゃったように、前は点として観光が考えられたっていうことと、情報発信だけで考えてるっていう傾向が非常に強かったんです。そうすると、大河ドラマを誘致すればなんかいいことがあるような妄想があったりとか。またはここだけを集中的にそれで開発すればいいっていう考え方があったんですけど。今の話にもありましたように、実はそういうのは何の魅力もなく、宿泊をしてもらうということになると、周りにある施設・設備を全部分析して、近いところにどういうところがあって、もうダブらない、補填していく、そのプラスの考え方でブランドを作っていくっていうことは言うまでもないのです。ですからいろんな東京都心で見ると、またなんか高層ビルでまたなんかいろんな施設やってても全部ダブってるじゃないのっていうことがあるんですけど、都心であればあるほどできるかもしれませんけど、それは外の人間をこうやって内部に引っ張ってるだけで、それはやっぱり都心だからこそできるっていう話なのです。

地方の観光地を見てみますと、やっぱりいくつの種類の観光の施設がないといけない。またそういうのは連携をしてないと結局それで誰も来ないっていう問題があります。

簡単に言えば、例えば奈良県で今までやってきたことと、今、京都府を見ると、京都の方が圧倒的に人が来るんですけど、30分しか離れてない奈良にはそこまでは人は来ていなかった。

文化財の専門家からすると文化財的には奈良の方が上なんです。だけど、人が来るのは京都。なぜ京都なのかというと食の文化があって、ナイトライフがあって、買い物があって、１つのところにいろんなものが揃ってるから人が来る。

あと交通の便が意外に悪いという、新幹線が９時半で終っちゃうとかですね。いろんなことがあって、うまくそこで恵まれてるんですけど、残念ながら戦略的に作られたことではないということを申し上げておきたいです。

ですから今回はそういう意味では、さっきのご指摘にありましたように、周りに何があって、どういう総合関係でどういう相乗関係ができるのかっていうことを十二分に考えた上でやらないと、ただ単に他にもあるようなこと、もう少し北の方にあるようなものをもう1回作っちゃうということになると、私は失敗すると思います。

【北山委員】

横浜の都市デザインは、これまで元町も、地元の商店街と市が共同して独特の街を作る。それから馬車道も馬車道の商店街とその住人と一緒に共同して作っていく。特色のあるものを順番に作っていくと。同じような商店街は作らない。伊勢佐木町も違う、伊勢佐木モールもまた別のアイデアでしかもそこで営んでる人たちが作っていくという作り方をしてます。

横浜市の中は今、画一的な都市ではなくて、モザイク状のいろんな興味のある面白い街ができてきている。それをみなとみらいが実は壊したんじゃないか、みなとみらいという新しい都市開発は横浜らしさを壊してる可能性もある。今回はその横浜らしさを壊さないように本当に気をつけて、どこにでもあるようなガラスのカーテンウォールのビルを作っちゃうようなことは絶対やっちゃいけないと私は思ってます。

【アトキンソン委員】

もう１ついいですか。

【石渡委員長代理】

はいどうぞ。

【アトキンソン委員】

ただ、観光戦略の深き部分にまで関わらせてもらった中で、もう１つあるのは、財政に悪影響を与えないということを指摘しました。やっぱり多くの今までの観光施設の、要するに経済合理性があまりにも軽視、無視されてきた形でやってきたわけだから、人口減少

って何なのかって、経済合理性をさらにさらに求めなきゃいけないっていうことを意味していることを申し上げておきたかったのです。
その経済合理性を十二分に考えた上で、経済合理性のないもの要するに市の財政に悪影響を与えるようなことだけは避けた方がいいんじゃないかというふうには思います。
例えばなんですけど、私が直接的に今まで関わってきたところで、京都二条城、あと新宿御苑、または赤坂迎賓館とか。いろんなところの今まで整備をやってきたのですけど、そういうところでどうやって、どういう整備をすれば、その施設は独立した形で要するにどういうプライシングでどういうインフラ投資をすれば、自立ができるかっていうことを今まで測ってきたのです。
で、これがやっぱり言われるほどの難しい話ではないのですけど、今まではあんまり考えられてこなかったから結局悪循環になっていて、京都二条城の場合ですと市の負担になっているので、毎年毎年それでそこの予算が削られていって、どんどんどんどん人が来なくなって、人が来ないからまた予算が削られていって、またシャビーのものになってしまって、また悪化するようなことだったのですけど、徹底的に整備をする代わりに、入場料をドンとあげていって。その時に委員会で言われたのですけど、人が来なくなるよっていうこと言われたにも関わらず、来る人は実は３倍になったっていうこともあって、日本第２の人気のお城に変わっちゃったっていうことがあります。
やっぱりこの経済合理性を一定に保つような形じゃないといけないと私は思います。

【北山委員】
経済は絶対否定できませんが、都市っていうのは人が住んでる場所ですから。住人のための都市っていうのが１番最初にあるべきです。投資されること、それからインバウンドのために都市があるわけではなくて、プライドのある魅力的な都市であれば、そこに結果として人々も訪れるという、そういう状態になると好ましいと私思います。

【アトキンソン委員】
ただそのインバウンドのためにっていうことは、私は申し上げてるわけでもないし、市民のためではないということを申し上げてるわけではありません。

【石渡委員長代理】
はい。予定した時刻はまあ45分で５分経過しておりますが、会場の都合もありますけどあと30分ぐらい使えると思いますので、もう少し延長して議論をさせていただきたいと思います。
藤木幸夫委員。

【藤木幸夫委員】
はい。議論がいい方向に入ってきましたね。アトキンソンさんと会うたびに話をするのですよ。しかし今この会合があって、もう本当に山下ふ頭のための会合なんですね。これは林さんの２回目の選挙の時に、林さんが、ある神奈川県下の市長選挙で、カジノが賛成

か反対かになって、調べたらカジノ持ってきたら落とすというような団体まで生まれて。これ横浜じゃありません。

で、林さんが顔色を変えて、横浜で私はどうしようかというお話、まあ私にも相談がありました。反対しなきゃだめですよ、と。でも反対ということはまた、色々差し障りがあるから、白紙ということにしたらどうだと。選挙は白紙で通ったのですよ。それで林さんが当選したのです。で、その白紙という言葉を選挙では使ったけども、本当の公約の中には入れてなかったので。これはある時はっきり言おうと、８月の22日に、たまたま３年後の投票日だったのですが、記者会見で、横浜港でカジノ反対という市民運動が起きてる、密かにこれが、だんだん日に日にでかくなっている、これは放っておくと大きな運動になりそうだと、ここではっきり横浜市長選挙で私は態度を表したいと。そこで使った言葉が白紙なのですよ。だから白紙以外にあの時使う言葉がなかった。それで選挙に臨んだ。で、勝った。そしたら横浜市民の皆さんはもう署名・捺印。捺印ですよ。捺印までして、もう20万人の人が反対を発表して、それを新聞が書いちゃったから、それから騒ぎが始まって。

ところがその時に密かにアメリカ政府から日本の官邸にどんどん電話が来ていたり、話があって、これはうんと後ほど、ホワイトハウスから私は直に聞いた話です。あの時はそんな辛かったのか。で、私の名前も私の写真も向こうのテレビにじゃんじゃん出たそうだ。反対派のこれは悪い野郎だと。だから私は遺書を書きましたよ、遺書。まだその遺書あります。あれは書いていて気持ちいいものじゃないですね。

でもそのぐらいの覚悟でなければ。相手はアメリカ政府だ。条件は何だ、と。徴兵制度が条件なのです。これはもう経済問題ではない。横浜の問題ではないなということで。

今私はここでこんなこと言っているのは、この会議が今日は横浜市民の方に中継されてるそうですね。これをご覧になってる横浜市民の方が大勢いらっしゃる。これはあからさまに言います。８月22日のあの普通の記者会見で林文子が白紙だと言ったことが、これが失敗の始まり。

じゃあその白紙ってどういう白紙なのって、先は分かりません。ただ市民運動の方だけが熱が出て、私はどっちの肩も持っていません。だけども、忙しい日々が私は続きました。

そして今横浜は真っ二つですよ。商工会議所の今日は、会頭があれで、というお立場で、今日はありがとうございました。あなたが来てくれて。会議所と口聞かなかったのだもんな俺は、ずっと。横浜の人間関係まで崩れちゃったのですよ。だから元へ戻す大変いい会がこの会なのだ。これは今日ここで結論が出るわけではないけど皆さん。この会を長続きさせていただいて、私みたいにこうやって黙ってられないから、全部喋ってしまう男がいますからね。これからも喋りますから。

ぜひ横浜の人間関係、あるいは商店街同士の関係、あるいは業界同士の関係、あるいは経済団体同士の関係、これが今乱れているから、横浜の不幸です。で、幸いカジノは、アメリカは諦めました。今、中国の習近平さんだけは自分のとこの足元だけを修正したけど、あとはみんな潰れていますね、どんどん。情報は毎日のように、私は今でも入ってきています。

この会はとってもワールドワイドの会ですよ。ここであえて、だから今半分本当のこと言っちゃったけれども、皆さんこれ真剣に、横浜市民の幸せのためにお願いします。私も年が年ですから、すぐ今の世の中をさよならしたら港のご先祖様の方へ今度移ってきますから。よくいい報告するために私はあっちへ行きたい。よろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】
はい、ありがとうございます。

【藤木幸夫委員】
中間報告です。

【石渡委員長代理】
はい。なにか、くしくもまとめのような話に、雰囲気になりましたけど。何かまた皆さんもう少し時間がありますけども。いかがですか。

【藤木幸太委員】
ではもう１つよろしいですか。

【石渡委員長代理】
はいどうぞ。

【藤木幸太委員】
今色々、とにかくあの藤木幸夫委員の方は全くこの開発からだいぶ逸脱した話になっておりましたが、でも大きな意味で言えばこの横浜市のあり方って言いますかね。今まで私も市のいろんな委員会に出していただいて。で、東京からいろんな方が学識経験者の方とかいらして、そういう会に出て話を聞くのですけど。横浜市が、これ市の悪口になったら申し訳ないと思うのだけど、市がきちっとフィードバックしてなかったように思うのですね、港湾のことについても。
そういうのをこう考えてみて、今回のこの案件については、やはり横浜市さんが先ほど皆さんの話伺ってても、やはり縦割、これが良くないと。もっと一括してやりなさいというような…

【藤木幸夫委員】
お話中悪いけど、みなとみらいは、あの開発はすごい失敗作だよ、あれは。その二の舞、それをまたやろうとしているのだ、今。あれは失敗作。携わった役所と携わった人間はみんな立派だけれども、全体から見たあのプロジェクトは、俺は失敗だと思っている。以上。

【藤木幸太委員】

その失敗って、全て100％成功は私ないと思っていて。

【藤木幸夫委員】
いいのは名前だけ。

【藤木幸太委員】
ですから、みなとみらいはそれなりにきちっとできていると思うのですけど。とにかく私が申し上げたいのは、どんなに立派な方がどんな発言されたり、どんな立派な市長がいても、やはり市会だとか県会だとか、横浜だと市会ですけど。この先生たちが背後になんかいろんな人がいて、いろんな力がかかって、これを通せと言われると、それが通っていってしまうのは本当に不思議なのですよね。

【藤木幸夫委員】
いや、あれ手先だから奴ら全部。

【藤木幸太委員】
とにかくそれを、やはりこの委員の方たちに、せっかくいろんないい意見をいただいたら、やっぱり市の方がそれを、市長始め、今日局長もいらっしゃるけど、やっぱりきちっとした方向でこれをまとめていただきたいと。これは強くお願いしたいと思います。

【石渡委員長代理】
はい、ありがとうございます。今日は意見交換の中で、北山委員それからアトキンソン委員、それから両藤木委員からご意見いただきました。これは今後の進め方について大きな示唆があると思いますので、もう一度やはり横浜の独自性を発揮しつつも、経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取らなきゃいけないと。
で、この山下の当該地域だけでどうこうではなくて、やっぱり全体バランスを考えて進めていかないと、後世で振り返った時に、この時の委員会のあれがなんだというふうに言われないように。むしろこの時の委員会こそ、これがあって横浜全体の未来を振り返った時に今日があるなと言ってもらえるようなものにしなきゃいけないのかなという感想を持ちました。
時間も時間なので、まだご意見ございますか。

【全体】
（発言無し）

【石渡委員長代理】
もしよろしければ今日はここの部分で一旦閉じさせていただいて、今貴重なご意見いただきましたので、要請事項も含めて、そして今後活発なご意見をいただきながら、やはり小さな目線でやらずにもっとグローバルで、将来を見据えた形で意見交換ができるよう

に、そして全ての人がやっぱり腹落ちするというか、これなかなか難しいんでしょうけどね。100%は難しいでしょうけど、まあ違った意見が様々あった中で腹落ちするようなものにしていければと思いますので。また次回よろしくお願いします。今日のところはちょうど４時になりましたので、本日はこの議事を閉じたいと思います。進行を務めさせていただきましたけども、今後の方は事務局にお返しをします。ご協力ありがとうございました。

【事務局】

石渡委員長代理ありがとうございました。本日はお忙しい中長時間にわたり意見交換いただきまして、誠にありがとうございました。次回の開催は春頃を予定しておりますが、詳細については後日お知らせいたします。以上を持ちまして閉会させていただきます。どうもありがとうございました。